

ムダにムダを重ねる徳山ダム「導水路」はいらない！

導水路はいらない！愛知の会

会報（号外）

2015年11月20日

〒467-0853

名古屋市瑞穂区内浜町 1-15

加藤伸久方

TEL/FAX 052-811-8069

URL: <http://www.dousuiro-aichi.org/>

アベ暴走政権の下、4年ぶりに「導水路」検討の場（幹事会）が開催！！

民主党「コンクリートから人へ」政権の公共事業見直しを受け、平成21年以降、凍結・検討の「導水路」事業について、第3回・検討の場が11月11日（水）開催されました。

先（9/17）の高裁不当判決を見届けた大村知事のコメント「極めて妥当。国が事業の検証を進めており、愛知県も取り組んでいく」（翌9/18の新聞報道参照）どおりの展開です。

＜参考＞関係地方公共団体からなる「検討の場（幹事会）」、及び同「検討の場」の開催状況

回数	開催月日	回数	開催月日
第1回 検討の場（幹事会）	平成22年12月22日	第1回 検討の場	平成23年6月1日
第2回 検討の場（幹事会）	平成23年4月27日	第2回 検討の場	未定（？）

※「検討の場（幹事会）」会議に提出資料のうち、関係分（一部抜粋）はP4～9に収録

メッセージ

資料はゼロ案（事業をやらない）なき、結論ありきの「我田引水」

「導水路」中止裁判・弁護団長 在間 正史



告知が11月5日で、議事の開催が11日とは、知られないうちに議事をやっってしまうという意図が丸見えですね。資料をざっと見ました。結局、ゼロ案（事業をやらない）の検討はしない、示された現行案とおおよそ実現不可能な他の案を検討するという、結論の見えたやり方ですね。

検討の前提となる利水者の参画継続意思の確認ですが、第1回幹事会・資料3に名古屋市の回答があり、名古屋市は参画継続の回答はしていません。参画継続の検討をしているという回答です。検討の前提条件が満たされていないことになります。

また、木曽川水系フルプランは目標年の2015年になりました。4年前の第1回の2011年から利水に関する検討の基礎条件が変わっており、改めて新規利水の必要性について検討して、参画継続するか検討すべきでしょう。やれることを考えてみますと、利水者である名古屋市と愛知県、特に参画継続を検討しているという名古屋市に対する行動でしょうか。

「緊急合同対策会議」を力強くスタート！ ご協力お願いします！！

矢張り動き出しました！ 「事業」継続に向け、関係地方公共団体（岐阜・愛知・三重の3県、並びに名古屋・岐阜などの10市町）について、もうかなり根回しがされています。

「会」では、11/17（火）、長良川市民学習会と「緊急合同対策会議」を開き、未だ「事業」への利水参画継続の意思の確認等について、未回答の名古屋市（国交省中部整備局との文書のやりとりはP2～3に収録）をはじめ、関係自治体が事業撤退に向けた行動を促すよう、関係議員の助力を得ながら年末・年始を山場に「働きかけ」を強力に推進することを確認しました。

乞！ご期待

自称・元「御用学者」の今本 博健・京都大学名誉教授が講演！

「導水路」中止裁判・最高裁「上告」決起集会（同封チラシ参照）

とき／ところ 12月5日（土） 午後2時～4時半／東別院会館2階・椿



木曽川水系連絡導水路事業への利水参画継続の意思の確認等について

■名古屋市長より平成22年12月9日回答

1. 木曽川水系連絡導水路により徳山ダムの水を導水する場合、その量は徳山ダムにすでに確保している開発水量（下表のとおり）となります。

対象事業	水道用水	工業用水
	1. 0 m ³ /s	0. 7 m ³ /s

2. 「総合的な評価」までの間に参画継続の検討を行うためには、別紙について、その内容を確認する必要がありますので、ご教示願います。
- また、代替案の検討につきましては、総合的な検討が必要となるため、市として検討することが困難と考えております。
- なお、検討にあたっては、「今後の治水対策のあり方について 中間とりまとめ」に記述されているように、科学的合理性、地域間の利害の衡平性、透明性を確保していただきますようお願いいたします。

(別紙)

1. 利水の検討にあたっては、流水の正常な機能の維持についての検討と相互に情報の共有を図りつつ実施していただきたい。
2. 事業検証を実施するにあたってはまず代替案の是非が課題となり、「ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施要領細目」の中の利水代替案【13】ダム使用権等の振替え、【14】既得水利の合理化・転用】等については、木曽三川の水の公平な利用の観点から検討していただきたい。
- また、【15】渇水調整の強化】については、渇水調整協議会の常時設置などの方策の実施に向けて検討していただきたい。

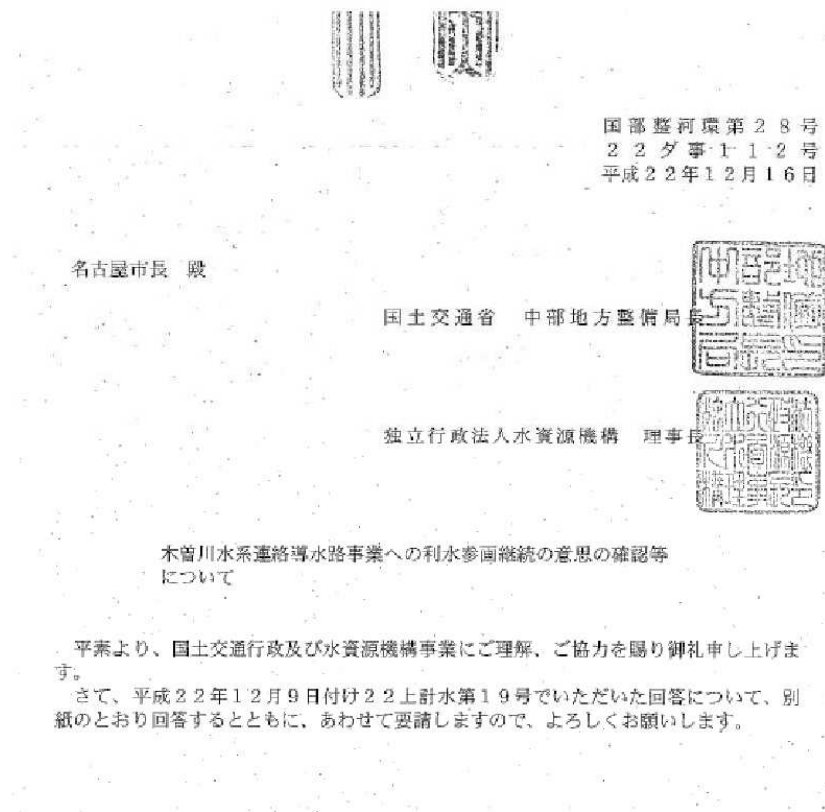
出展:木曽川水系連絡導水路事業の関係地方公共団体からなる検討の場(幹事会)資料(平成22年12月22日開催)

資料-2「第1回検討の場(幹事会)」説明資料……(抜粋)

(2)木曽川水系連絡導水路事業への利水参画継続の意思の確認について

木曽川水系連絡導水路事業への利水参画継続の意思の確認等について

■検討主体から名古屋市長の回答についての要請



(別紙)

ご提案いただいた事項については、「ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施要領細目」に沿って適切に検討を実施いたします。

なお、(別紙)2.の検討に当たっては、ダム使用権等の振替が可能な水量、都市用水の既得水利の合理化・転用が可能な水量及びこの転用を前提として農業用水の既得水利の合理化・転用に依存しなければならない水量について、関係地域の整理が必要なことから、名古屋市において貴市に関わる内容を検討いただき、当職が行う概略評価による利水対策案の抽出までに結果を提示していただくようお願いします。

また、渇水調整の強化については、渇水時に被害を最小とするため、既得水利権に対してもダムに依存する水利権と同等の節水率で調整することが重要であることから、その対応方針についても検討をお願いします。

以上

出展:木曽川水系連絡導水路事業の関係地方公共団体からなる検討の場(幹事会)資料(平成22年12月22日開催)

資料-2「第1回検討の場(幹事会)」説明資料……(抜粋)

(2)木曽川水系連絡導水路事業への利水参画継続の意思の確認について

対策案9(ダム使用権等の振替)

利水対策案

ダム使用権等の振替

出展:「第2回検討の場(幹事会)」資料(平成23年4月27日開催)

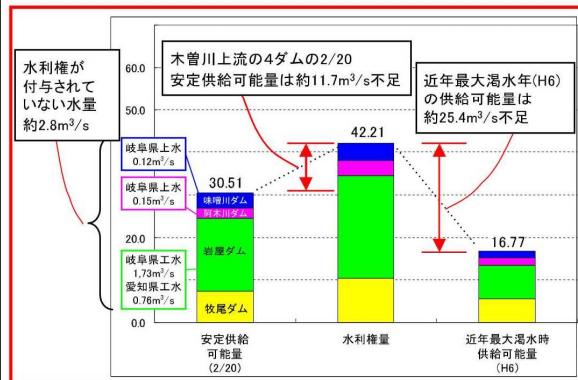
資料-4 複数の利水対策案の立案について……(抜粋)

◇対策案の概要

- ダム使用権等で、需要が発生しておらず、水利権が付与されていないものを振り替えて、必要量を確保する。
- 犬山地点から取水する、愛知県及び名古屋市の水道用水に対するダム使用権の振替の検討対象は木曽川上流の4ダムとなる。木曽川上流の4ダムには、安定供給可能量に対して水利権が付与されていない水量が約2.8m³/sあるが、安定供給可能量は、現在の水利権量に対して約11.7m³/s不足しており、振替は困難。
- 木曽川大堰上流地点から取水する、名古屋市工業用水に対するダム使用権の振替の検討対象は長良川河口堰となる。長良川河口堰には、安定供給可能量に対して水利権が付与されていない水量として約13.4m³/sがあり、このうち約5.8m³/sは長期的な計画※に位置付けられている。よって、愛知県及び三重県の都市用水約7.6m³/sが振替の検討対象となり、両県との調整が必要。
- 近年最大渇水年(H6)には、木曽川上流の4ダム及び長良川河口堰の供給能力は、現在の水利権量に対して約22.1m³/s不足する。
- 総概算コスト:関係者調整を伴うため不確定
- 工期:関係者調整を伴うため不確定

※安定供給可能量は近年の20年(S54~H10)に2番目の渇水年の流況を基に試算
※長期的な計画とは、愛知県・三重県・名古屋市における事業計画等に位置付けられている水量
※取水位置、供給位置の関係により新たな取水施設の検討が必要な場合がある
※対策案に関する施設管理者、水利関係者等との事前協議や調整は行っていない

◇犬山地点取水を対象とした 木曽川上流4ダムの安定供給可能量と水利権量

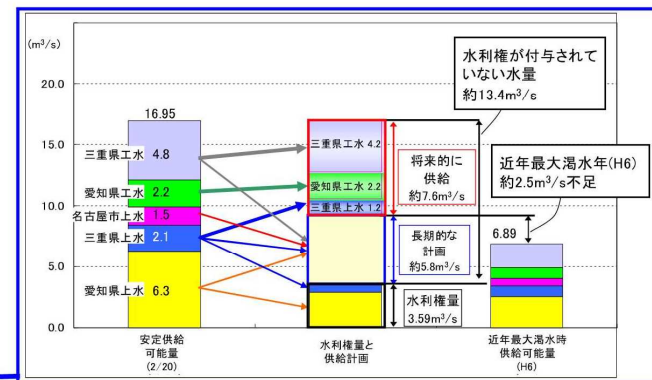


※水利権が付与されていない水量: (2/20安定供給可能量－水利権量)
※水利権量は平成23年4月現在

各水資源開発施設と取水地点・供給地域



◇木曽川大堰上流を対象とした 長良川河口堰の安定供給可能量と水利権量



※水利権が付与されていない水量: (2/20安定供給可能量－水利権量)
※水利権量は平成23年4月現在

※木曽川4ダムの供給は全域に及んでいる。
長良川河口堰の現在の供給は三重県(北中勢)、愛知県(愛知用水(知多地域))となっている。

対策案10(既得水利の合理化・転用)

利水対策案

既得水利の合理化・転用

◇対策案の概要

- 用水路の漏水対策、取水施設の改良等による用水の使用量の削減、農地面積の減少、産業構造の変革等に伴う需要減分を転用して、必要量を確保する。
- 愛知用水等、規模の大きなかんがい用水の幹線水路や支線水路については、これまでも老朽化等の対策が図られている。
- 水利権更新毎に用途別の必要水量については、適切に審査されている。
- 総概算コスト：関係者調整を伴うため不確定
- 工期：関係者調整を伴うため不確定

※対策案に関する利水関係者等との事前協議や調整は行っていない

◇木曾川における水利権一覧

用水目的	件数	最大 使用水量 (m^3/s)
水道用水	9	33.501
工業用水	5	17.241
農業用水	6	105.884
その他	23	0.755
発電	56	3,910.401
計(発電を除く)	43	157.381

(平成23年4月現在)

※水道・工業・農業用水は直轄区間における主な水利権である。

◇愛知用水二期事業

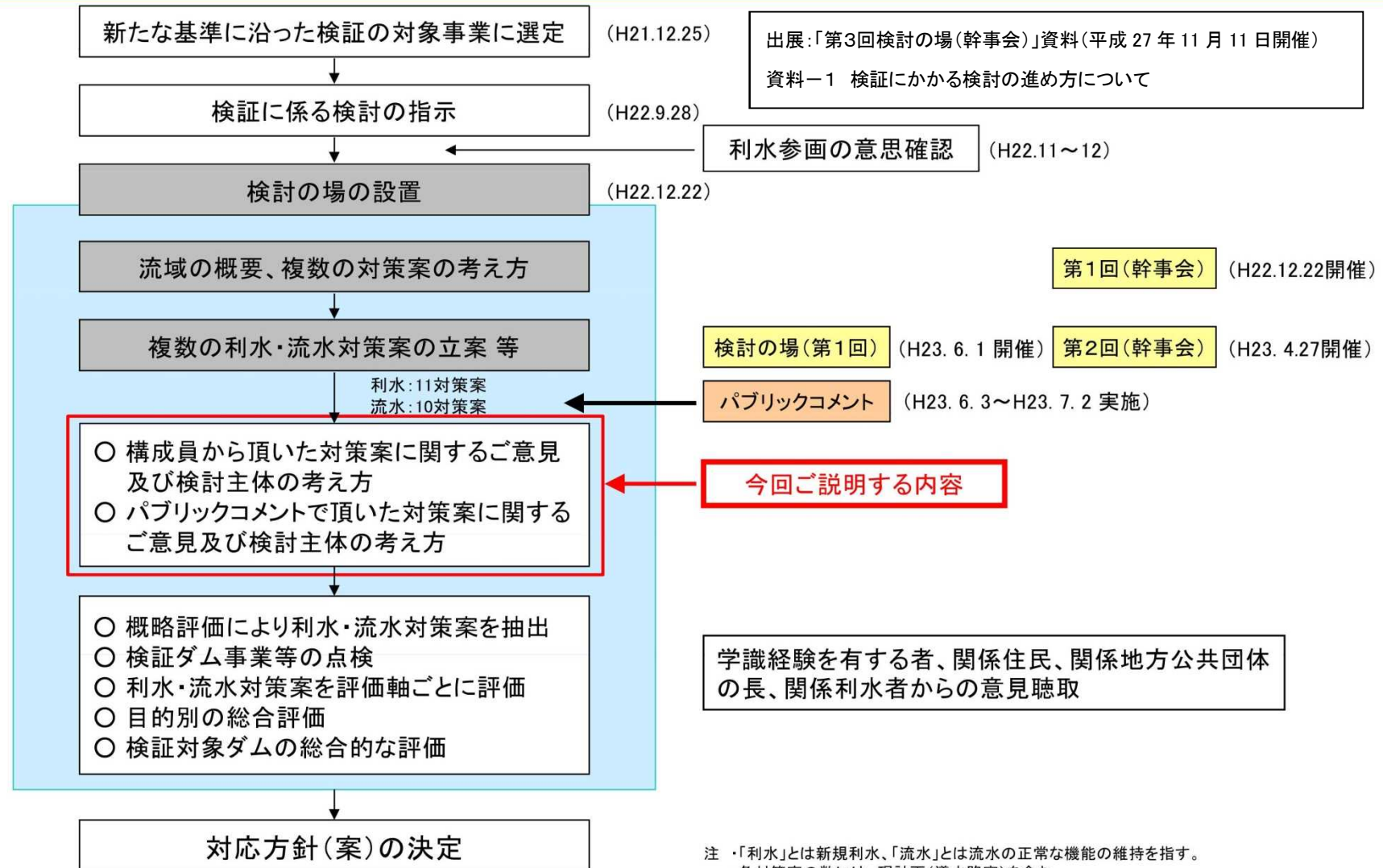


改築された水路

出展:「第2回検討の場(幹事会)」資料(平成23年4月27日開催)

資料-4 複数の利水対策案の立案について……(抜粋)

検証に係る検討の進め方について



注 ・「利水」とは新規利水、「流水」とは流水の正常な機能の維持を指す。
・各対策案の数には、現計画(導水路案)を含む

構成員から頂いたご意見全般(1/5)

■頂いたご意見全般について

・検討の場で頂いたご意見全般については、「ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施要領細目」の第3 再評価の実施 1 再評価の実施手続(2)情報公開、意見聴取等の進め方を踏まえ、相互の立場を理解しつつ、検討内容の認識を深め検討を進めるため、とりまとめています。

構成員	頂いたご意見の内容
岐阜県	<ul style="list-style-type: none"> ・検証作業については、着実に速やかに実施していただきたい。 ・代替案の検討にあたっては、現実的な観点からと、客観的なデータに基づいて、検討していただきたい。 ・事業等の点検(総事業費、工期)については、最新技術の活用も含めて、徹底したコスト縮減に努められたい。 ・渇水対策の強化としての水系総合運用の検討のみではなく、通常時からの水系総合運用が着実に図られ、各水利使用者が均等な恩恵を受けることが出来るよう、調整に努められたい。 ・本県東部の東濃・可茂地域は、西部と違い渇水に極めて弱い地域で、連絡導水路事業の渇水対策効果に地元では非常に期待している。今後の検証にあたってそのことを十分留意していただきたい。 ・新たに岐阜県内で工事をしたり、施設を設置したり、水源林を整備するなどの代替案を検討しているが、新たな工事等々については、地元の理解がなければ案として現実性がないと思うが、地元の理解を得ることについて相当困難が予想されるので、そのことも含めて慎重に検討いただきたい。 ・下流域の利水のために岐阜県内の土地や各種施設の形状変更を行う場合は、地元の理解が得られることが大前提であり、その点を十分考慮されたい。
愛知県	<ul style="list-style-type: none"> ・「利水単独導水施設」や「治水単独導水施設」については、利水と治水が共同で一つのトンネルをつくるという現計画に対し、単に利水と治水を別々につくるという案であり、代替案には馴染まないと考える。 ・「地下水取水案」は、濃尾平野での更なる地盤沈下が心配されるので、これらを十分に踏まえた評価が必要である。 ・「ため池案」は、5,900箇所もの膨大な数のため池を新たに設置するものであり、実現性に疑問がある。 ・2.3m³/sの回答は、詳細に積み上げを行って必要量として算出したもので、現段階でこれを変更する必要な事情はないので、回答はそのまま受け取りいただきたい。 ・さまざまな可能性の観点から複数の対策案が示されたが、対策案の絞り込みにおいては、コスト最優先の視点は当然であるが、工期や実現性についても十分に考慮していただきたい。 ・徳山ダムを活用しない対策案では、徳山ダムに要した建設費負担や維持管理費負担なども総概算コストに加味して、評価していただきたい。 ・総事業費・工期については点検作業を実施している段階との説明であったが、目的別の検討は、事業費等の点検結果を踏まえることとなっているため、早期に点検を行っていただきたい。 ・総事業費の点検においては、最新の知見を踏まえ、可能な限りコスト縮減を検討していただきたい。 ・今回の検証は、「できるだけダムにたよらない治水」への政策転換を進めるという考えに基づくものであるが、木曽川水系連絡導水路と一体不可分である徳山ダムは既に完成している。導水路が検証の対象になったことに違和感がある。

出展:「第3回検討の場(幹事会)」資料(平成27年11月11日開催)

資料-2 構成員から頂いた対策案に関するご意見全般……(抜粋)

構成員から頂いたご意見全般(2/5)

構成員	頂いたご意見の内容
三重県	<ul style="list-style-type: none"> 抽出された案を現行案と比較検討し総合評価をする過程の中では、理詰めのな詰めが必要と考えているので、幹事会での議論も十分積み上げた上で検討の場に臨んでいくという進め方も考慮して頂きたい。 今回示された案は、事業費や工期が未確定となっており比較検討するには情報が十分でないので、2～5案を抽出して引き続き検討する場合は、事業費であれば各県あるいは関係自治体の負担がどうなるかと、それぞれの課題についてどのような対応策が考えられているかということについても併せて情報をいただきたい。 地域にいろいろ影響を与える対策案が絞り込みの案として残るのであれば、その課題を具体的にどう解決していくのかも、併せて示していただきたい。 事業費の点検は、さらなるコスト縮減、工期短縮などの期待的要素は含まないという前提で点検することになっており、減る方はないが増える方だけあるように読めてしまうので、是非、現行の事業費が増えないような点検をお願いしたい。
名古屋市	<ul style="list-style-type: none"> 抽出した対策案につきましては、さらなる詳細な検討を行っていただきますようお願いいたします。 今回の検証作業は、代替案やハードでやる以外の方策もあるのではないかなど、いろいろな観点があるということで行われている部分がある。その中には自治体として取り組まないといけない部分、市民の協力を願わないといけない部分とかいろいろあると思うので、大きな人口を抱えている名古屋市として、多方面にわたって検討し、やるべきことはやっていきたいという考えで取り組んでいく。対策案の絞り込みにあたり、そういう観点を取り込んでいただけたらありがたい。 木曽川水系連絡導水路事業は、渇水対策として位置付けられていることから、事業の検証に係る検討を進めるにあたりましては、渇水リスク軽減の観点から木曽三川全体の水利用について検討することが必要と考えます。検討に際しましては、対策案9(ダム使用権等の振替)、対策案10(既得水利の合理化・転用)、対策案(渇水調整の強化)が有効であると考えられますので、今後の対策案の抽出に際しましては、これらの案を選定していただきますようお願いいたします。 私どもは「ダム使用権等の振替」、「既得水利の合理化・転用」・「渇水調整の強化」を要望させていただいているが、提示された対策案に、その点が配慮されていることについてはありがたく思っている。本市としても対策案について検討を進めないといけないと思うが、名古屋市として、水に対する考え方が、流域といいますか上流を含めて全体としての水なんだと、そういった面について十分意見を伺いながら、理解しながら進めていきたいと思っている。
岐阜市	<ul style="list-style-type: none"> 平成6年に発生した異常渇水では、本市を流れる長良川の水質悪化や鵜飼大型船の運航への支障のほか、水道水源となる地下水位の大幅な低下など、様々な影響が生じました。このため、平成6年を上回るような大渇水の発生に備え、長良川の良好な河川環境の保全や水道水の確保は非常に重要であり、できる限りの対応をしていくことが必要であると考えております。このようなことから、流水の正常な機能の維持のための適切な対策が講じられるようお願いいたします。
瑞浪市	<ul style="list-style-type: none"> 瑞浪市が属しています岐阜県東濃地域と可茂地域は、水道水のほとんどを県営水道で賄っています。その県営水道は、木曽川水系の4つのダム(牧尾ダム、岩屋ダム、阿木川ダム、味噌川ダム)に水源を依存しています。しかし、近年の地球温暖化による異常気象の影響から年間降雨量が減少傾向にあり、ダムの貯水量が低下し、これによる異常渇水で深刻な水不足が起こっています。東濃・可茂地域では、過去10年間に東濃地域6回、可茂地域7回の取水制限が実施され、市民生活に支障をきたし、そのたびに関係機関との協力で渇水対策を図ってきておりますが、市民に安定した水の供給ができる抜本的な渇水対策が必要と考えています。これらのことから木曽川水系連絡導水路事業には、異常渇水による被害の最小化を図るため、既存の水資源開発施設や木曽川水系連絡導水路を活用した水系総合運用により、取水制限が緩和され、渇水頻度が減少することを期待しています。 今回の「第1回 木曽川水系連絡導水路事業の関係地方公共団体からなる検討の場」に於いて示された「複数の利水対策案」、「複数の流水の正常な機能の維持対策案」は、その対策案の概要及び不確定な要素がある総概算コスト等を考えますと、現計画(木曽川水系連絡導水路事業)が現実的な対策案だと思いますので、今後の検証は、現実性及び事業費等を検討していただき、水系総合運用を含めて、着実に、早期に、進められることをお願いします。

出展:「第3回検討の場(幹事会)」資料(平成27年11月11日開催)

資料-2 構成員から頂いた対策案に関するご意見全般……(抜粋)

出展:「第3回検討の場(幹事会)」資料(平成27年11月11日開催)

参考資料-1 後日構成員から頂いた意見……(抜粋)

「第1回 木曽川水系連絡導水路事業の関係地方公共団体からなる検討の場」の後日、構成員から頂いたご意見

構成員	意 見
岐阜県	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事業等の点検(総事業費、工期)については、最新技術の活用も含めて、徹底したコスト縮減に努められたい。 2. 代替案の実現性については、客観的データに基づき検討願いたい。 また、下流域の利水のために岐阜県内の土地や各種施設の形状変更を行う場合は、地元の理解が得られることが大前提であり、その点を十分考慮されたい。 3. 渇水対策の強化としての水系総合運用の検討のみではなく、通常時からの水系総合運用が着実に図られ、各水利使用者が均等な恩恵を受けることが出来るよう、調整に努められたい。
愛知県	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今回の検証は、「できるだけダムにたよらない治水」への政策転換を進めるという考えに基づくものであるが、木曽川水系連絡導水路と一体不可分である徳山ダムは既に完成している。導水路が検証の対象になったことに違和感がある。 ○ 総事業費・工期については点検作業を実施している段階との説明であったが、目的別の検討は、事業費等の点検結果を踏まえることとなっているため、早期に点検を行っていただきたい。 ○ 総事業費の点検においては、最新の知見を踏まえ、可能な限りコスト縮減を検討していただきたい。 ○ さまざまな可能性の観点から複数の対策案が示されたが、対策案の絞り込みにおいては、コスト最優先の視点は当然であるが、工期や実現性についても十分に考慮していただきたい。 ○ 徳山ダムを活用しない対策案では、徳山ダムに要した建設費負担や維持管理費負担なども総概算コストに加味して、評価していただきたい。 ○ 対策案にある「ため池案」は、5,900箇所もの膨大な数のため池を新たに設置するものであり、実現性に疑問がある。「地下水取水案」は、濃尾平野での更なる地盤沈下が心配されるので、これらを十分に踏まえた評価が必要である。 ○ 「利水単独導水路施設」や「治水単独導水路施設」については、利水と治水が共同で一つのトンネルをつくるという現計画に対し、単に利水と治水を別々につくるという案であり、代替案には馴染まないと考える。
名古屋市	<p>木曽川水系連絡導水路事業は、渇水対策として位置付けられていることから、事業の検証に係る検討を進めるにあたりましては、渇水リスク軽減の観点から木曽三川全体の水利利用について検討することが必要と考えます。検討に際しましては、対策案9(ダム使用権等の振替)、対策案10(既得水利の合理化・転用)、対策案(渇水調整の強化)が有効であると考えられますので、今後の対策案の抽出に際しましては、これらの案を選定していただきますようお願いいたします。</p> <p>抽出した対策案につきましては、さらなる詳細な検討を行っていただきますようお願いいたします。</p>
岐阜市	<p>平成6年に発生した異常渇水では、本市を流れる長良川の水質悪化や鵜飼大型船の運航への支障のほか、水道水源となる地下水位の大幅な低下など、様々な影響が生じました。</p> <p>このため、平成6年を上回るような大渇水の発生に備え、長良川の良い河川環境の保全や水道水の確保は非常に重要であり、できる限りの対応をしていくことが必要であると考えております。</p> <p>このようなことから、流水の正常な機能の維持のための適切な対策が講じられるようお願いいたします。</p>
瑞浪市	<p>瑞浪市が属しています岐阜県東濃地域と可茂地域は、水道水のほとんどを県営水道で賄っています。その県営水道は、木曽川水系の4つのダム(牧尾ダム、岩屋ダム、阿木川ダム、味噌川ダム)に水源を依存しています。</p> <p>しかし、近年の地球温暖化による異常気象の影響から年間降雨量が減少傾向にあり、ダムの貯水量が低下し、これによる異常渇水で深刻な水不足が起こっています。</p> <p>東濃・可茂地域では、過去10年間に東濃地域6回、可茂地域7回の取水制限が実施され、市民生活に支障をきたし、そのたびに関係機関との協力で渇水対策を図ってきておりますが、市民に安定した水の供給ができる抜本的な渇水対策が必要と考えています。</p> <p>これらのことから木曽川水系連絡導水路事業には、異常渇水による被害の最小化を図るため、既存の水資源開発施設や木曽川水系連絡導水路を活用した水系総合運用により、取水制限が緩和され、渇水頻度が減少することを期待しています。</p> <p>今回の「第1回 木曽川水系連絡導水路事業の関係地方公共団体からなる検討の場」に於いて示された、「複数の利水対策案」、「複数の流水の正常な機能の維持対策案」は、その対策案の概要及び不確定な要素がある総概算コスト等を考えますと、現計画(木曽川水系連絡導水路事業)が現実的な対策案だと思いますので、今後の検証は、現実性及び事業費等を検討していただき、水系総合運用を含めて、着実に、早期に、進められることをお願いいたします。</p>

◆◆会員の皆さまへ「川・海を考えるイベント」参加のお願い◆◆

—生物多様性COP10から5年・長良川河口堰運用から20年—

① 2016/1/31(日) 伊勢湾流域圏の再生 シンポジウム

＜問い合わせ先：よみがえれ長良川実行委員会（武藤宅 Tel：090-1284-1298）＞

山から海へつながる長良川と伊勢湾は、多様な生態系を育むひとつの生命流域です。「川～流域～海」を一体として保全していく視点から、これからの伊勢湾流域圏の再生を考えます。



- *と き 1月31日(日) 13:30～16:30 (開場 13:00)
- *ところ じばさん三重6Fホール (近鉄四日市駅より徒歩3分)
- *基調報告 高山 進 伊勢三河湾流域ネットワーク・代表世話人
- *講演 「伊勢湾の環境の今」・石原義剛 海の博物館長
- *パネラー ●「伊勢湾の流れと答志島の漂着ゴミ」・千葉 賢 四日市大学教授
●「ウミガメが上る浜づくり」・森 一知 四日市ウミガメ保存会代表
●「木曽三川の魚たちと伊勢湾」・向井貴彦 岐阜大学教授
- *コーディネーター 三石朱美 国連生物多様性の10年市民ネットワーク
- *その他 定員：100名、資料代：500円 (※学生無料)

◆◆会員の皆さまへ「戦争法廃止のイベント」参加のお願い◆◆

—「私たちは、いま、何をすべきか」をテーマに、講演会—

① 12/6(日) 憲法違反の安保法「廃止」にむけて (チラシ参照)

＜問い合わせ先：「愛知県弁護士会 人権・法制係」事務局 (Tel：052-203-4410)＞



- *と き 12月06日(日) 13時30分～14時00分
- *ところ 愛知県弁護士会館・5階ホール (裁判所庁舎北)
- *講演者 早稲田大学・法学部教授 水島 朝穂 氏
- *参加費 無料・事前予約不要 (先着200名)

—強行採決から2年、施行から1年…まだまだ、諦めるとしたら大間違い!!!!—

② 12/6(日) 秘密保護法なんて ゆるさない 12.6大集会 (チラシ参照)

＜問い合わせ先：秘密保全法に反対する愛知の会 (Tel：052-910-7721)＞



- *と き 12月06日(日) 17:00～集会
17:30～デモ出発
- *ところ 栄・エンゼル広場 (松坂屋北館東)
- *その他 【ブログ】 <http://nohimimittyu.exblog.jp>

—民意を無視した安倍内閣の暴走を止め、倒すために大きな声を上げよう!—

③ 12/19(土) 安倍内閣の暴走を止めよう! あいち集会 (チラシ参照)

＜問い合わせ先：安倍内閣の暴走を止めよう共同行動実行委員会 (Tel：090-9917-6998)＞



- *と き 12月19日(土) 17:00～集会
17:30～デモ出発
- *ところ 久屋公園・光の広場 (松坂屋南館東)
- *その他 【ブログ】 <http://stopabenk.kitunebi.com/>